

ハイデルベルク信仰問答より

問 112 第九戒では、何が要求されていますか。

答え それは、私が誰に対しても、偽りの証言をせず、誰の言葉も曲げず、他人の噂をしたり、中傷したりせず、聞きもしないで軽々しく誰をも裁かないことでもあります。むしろ、私は神の怒りの刑罰の下に、悪魔自身の言葉として、一切の虚言および欺瞞を避けるように求められているということでもあります。法廷の事柄においても、またその他の事柄においても、私は真理を愛し、正直に真理を語りかつ告白すべきであります。本当に私が、できる限り隣人のよき名を守り、高めることでもあります。

〔別訳〕

わたしが誰に対しても偽りの証言をせず、誰の言葉をも曲げず、陰口や中傷をする者にならず、誰かを調べもせずに軽率に断罪するようなことに手を貸さないこと。かえって、あらゆる嘘やごまかしを、悪魔の業そのものとして神の激しい御怒りのゆえに遠ざけ、裁判やその他のあらゆる取引においては真理を愛し、正直に語りまた告白すること。さらにまた、わたしの離任の荣誉と威信とをわたしの力の限り守り促進する、ということです。

第九戒 隣人について偽りの証言をしてはならない。(出 20:16)

第九番目の教えは「偽証の禁止」であり、基本的には法廷における偽りの証言に対するものです。いつの時代にもカネの力によって事実が歪められ、裁判そのものの意味が失われる傾向があります。結局は金持ちにとって有利な社会が形成されてしまうからです。神はあくまでも事実のみが認められることを求めておられるのであって、賄賂を忌み嫌われます。

あなたは貧しい者の訴訟において、裁きを曲げてはならない。偽りの言葉から距離を置かなければならない。罪なき者や正しき者を殺してはならない。私は、悪しき者を無罪とはしないからである。あなたは賄賂を受け取ってはならない。賄賂は目の見える人を見えなくし、正しき者の言い分をゆがめるからである。(出 23:6-8)

反対に、弱者であっても不正にかばってはならないとも言われています。

裁きにおいて不正をしてはならない。弱い者に偏ってかばってはならない。強い者におもねってはならない。同胞を正しく裁きなさい。(レビ 19:15)

あくまでも「正しい裁判」が求められているのです。

本問答書では、第九戒について、上記のような「法廷において偽証をしない」という公的な事柄のみに留まらず、より日常的なあり方についても教えられています。「他人の噂」「中傷」「聞きもしないで軽々しく誰をも裁かないこと」とあるように、誰かが誰かの悪い噂話をして

いる場合にそれを鵜呑みにすべきでないこと、枝葉を付けて触れ回らないこと、自分の目で事実を確かめるまで口を開くべきではないこと、事実が判明したとしてもそれを他人に語るべきであるかどうかを熟考すべきことなど、福音に生きる者は問題を無駄に大きくすることを避ける存在であることを教えています。口は常に災いの元であり、発言した言葉は返ってこないからです。

- ・ 私たちは皆、度々過ちを犯します。言葉で過ちを犯さないなら、その人は体全体を制御することのできる完全な人です。(ヤコブ 3:2)
- ・ 見なさい。いかに小さな火が大きな森を燃やすことか。舌もまた火です。舌は、私たちの体の器官の中で、不義の世界を成しています。それは体全体を汚し、人生の歩みを焼き尽くし、自らもゲヘナの火によって焼き尽くされます。(ヤコブ 3:5,6)

問 112 では、「虚言および欺瞞」を「悪魔自身の言葉」と見なしており、私たちの口からそういう言葉が出てくるとき心が悪しき者によって支配されていることを指摘しています。私たちが発する言葉が誰かを傷つけないかどうか、神の真理に基づくものであるかどうかを慎重に考える必要があるのです。

また、「真理を愛し、正直に真理を語りかつ告白すべき」と言われているように、神から来ることばを恐れずに語るべき状況も存在します。語るべき状況で黙することも神の御前に不誠実である場合があるのです。

バラムが「今夜はここに泊まりなさい。主が私に告げられるとおりに、あなたがたにお答えしましょう」と言ったので、モアブの高官たちはバラムのもとにとどまった。(民数 22:8)

預言者バラムの人生全体が正しくあったわけではありませんが、この時の彼はバラクからどれだけ賄賂を呈示されても、神が語られることだけを取り次ぎました。預言者ミカヤも同様の姿勢を貫いています。

ミカヤを呼びに行った使いの者は、彼にこう告げた。「預言者たちは口をそろえて王にとって良いと思われることを告げています。どうかあなたも、彼らの一人が言うように、良いと思われることを告げてください。」だがミカヤは、「主は生きておられる。私は、主が私に告げられることを語る」と言って、王のもとに行った。(I 列王 22:13-15)

日本人は「周りがどうしているか」を判断基準にしやすい傾向がありますが、そのような中から贖われたキリスト者は、如何なる時にも神の御前にある真実な生き方を追い求めます。私たちが人生で直面するあらゆる場面で聖霊が私たちの口を支配してくださることを求め続けましょう。